

シリーズ「グローバル・ジャスティス」
第22回

『アラブの春』は成るか

グローバルな視点から中東民主化を展望する



内藤 正典

グローバル・スタディーズ研究科 教授

2011年の初めから、連鎖的に始まった中東民主化の動き。チュニジア、エジプトと市民による独裁体制への異議申し立ては一定の成果を収めた。しかし、リビアでは欧米の介入と石油利権が絡み、シリアに対しては沈黙をつづける国際社会。すでに状況は混沌としているなか、中東・イスラーム世界での民主化が、どのような方向へ進むのかを展望する。

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： **12月21日** (水)

来聴歓迎・予約不要

18:30-20:00

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp

会場：講武館 **104** 番教室